

仙台市小学校長会生徒指導研修会

日時： 平成22年11月16日（火）10:00～

会場： 仙台市教育センター 大会議室

講話： 『傷ついた心を回復させる学校の条件』
一心の回復力(レジリエンシー)入門ー

講師： 白鷗大学教育学部教授 仁平義明 先生

1 開会のあいさつ 仙台市小学校長会 会長 小野英男（古城小学校長）



- ・ 昨今、虐待を受けていると思われる児童が増加しているとの報告がある。
- ・ そのために心に傷を負う児童も増えてきている。
- ・ そのような児童に対して、学校はどのように接し寄り添えばよいか、対応を迫られている。
- ・ 今日の研修会はそのような意味で大変意義深いものである。しっかり勉強したい。

2 講話の要旨

＜レジリエンシー＞

従来、親による虐待が次の子の世代の虐待を招く「虐待の連鎖」が警告されてきた。他方、虐待のように強く長く続くストレスを受けながら、そこから回復し、精神的に健康に成長していく子どもたちがいることにも注目が集まっている。その子どもたちが持っていると思われる心の回復力という特性あるいは能力を意味する。

＜レジリエンシーを持った者の特徴＞

- ① 自分を信頼して、あきらめないで自分が努力すれば、問題は解決し成功できると信じる（自己信頼）。
- ② つらい時期があっても、未来は必ず今より良くなると思っている（未来志向・楽観主義）。
- ③ 自分にはこの世に存在する意味があり、人生には何か意味があると思い、自分を大事にする（自尊心）。
- ④ 少々の欠点や失敗があることを認めながらも、自分を愛せる（自己受容）。
- ⑤ 人間というものは本質的には良いものだと思う（肯定的人間観）。
- ⑥ 自分を見守ってくれる人は必ずいると信じ、必要な時には人の助言や助けを求めることができる（他者の信頼と利用）。
- ⑦ 困難な状況や危機にあっても、事態をある程度客観的に見ることができる（平静さ）。



- ⑧ 困難な状況を解決するために必要な情報を求める（情報収集）。
- ⑨ 必要な時には、リスクを冒すことができる（リスクテイク）。
- ⑩ 自分の人生は、自分独自のものです、自分自身の意思で立ち向かう必要もあることを知っている、最後は自分が決めなければならないことを知っている（実存的孤独）

<傷ついた心を回復させるために、周りで支える人々が行うべきことは>

あなたは決して一人ではない、だれかがいてくれる、というメッセージを与えること。

<学校の役割:教師は何ができるか>

- ・ 一人ひとりの子どもに、“自分は関心を持たれている”、“気にかけている”と具体的に感じさせること。

↓

彼ら彼女たちは、自分を大事にするようになるはず

- ・ “何があっても、お前たちを見放さない”と言ってあげること。そして実際に見放さないこと。

↓

彼ら彼女たちは、勉強や人生をあきらめそうになったとき、“もう少しやってみようか”と思うはず

- ・ 子どもたちが何か屈辱を感じるようなことがあるなら、全力でその“尊厳”を守ってあげること。

↓

彼ら彼女たちは、人間を信頼するようになるはず

- ・ 彼ら彼女たちのために、教師や学校は何か”少しだけ“犠牲を払うこと。

↓

彼ら彼女たちは、自分のためだけでなく他の人のためにも生きるはず

3 御礼並びに閉会の挨拶

仙台市小学校長会 生徒指導部副部長 針 持 哲 郎（小松島小学校長）



- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 学校の役割・教師の役割は、虐待を受けたりして心が痛んでいる子どもへの対応というだけでなく、すべての子どもたちへ我々が心すべきことと受け止めた。
- ・ 今後もいろいろご教示をいただきたい。